

令和 7 年 1 1 月 1 3 日
宮城県環境放射線監視センター

女川原子力発電所環境放射能調査結果（四半期報及び年度報）報告時の 錯誤防止のための対策について

1 経緯

令和 6 年度女川原子力発電所環境放射能調査結果（年度報）の取りまとめ過程において、各四半期の報告内容に記載の誤りや漏れが認められたことから、再発防止対策について検討したので報告するもの。

【参考】第 1 7 3 回女川原子力発電所環境調査測定技術会において報告した内容

- ・ マガキ及びアラメの Cs-137 濃度推移グラフにおける一部測定地点の未表示
- ・ 東北電力株式会社がモニタリングステーションに設置している気象観測装置更新の未反映

2 錯誤要因及びその再発防止対策

錯誤要因	再発防止対策
(1) 濃度推移グラフの作成時の問題	
・ 表計算ソフトによる入力ファイルやデータシートが複数に分散 ・ 測定データの入力方法やグラフの作成手順、欠測時の処理方法等、統一的な運用ルールが未制定 ・ グラフ中のプロットに対する確認体制が不十分 ・ 担当者間での引継ぎや共有が不十分	・ データ入力のファイルやシートを一本化するとともに、シート内の入力項目及び内容を統一化し、データ入力からグラフ作成までの一連の流れを明確化 ・ グラフの作成及び修正等、一連の手順を明文化 ・ 入力シート上にチェックポイントを設け、確認すべき事項を明示し、グラフ等の不備を未然に防止 ・ 上記対策を実施して、担当者に依存しない体制を整備するとともに、所内における共有を徹底
(2) 東北電力株式会社との情報共有事項の不明確さ	
・ 確認・照会すべき項目が不明確 ・ 装置更新の情報確認が不十分	・ 事前打合せ時の確認項目に装置更新の有無を追加し、確認を義務化 ・ 東北電力株式会社に対して、定期的に県への最新情報提供の徹底を要請し、打合せ時の情報の共有を徹底

3 組織内の体制の強化

- ・ 錯誤時やヒヤリハット発生時の記録・共有を徹底させるため、所内にヒヤリハット対応担当者を設置し、事案の記録及び周知並びに改善策の検討を一元的に行う体制を整備
- ・ 改善策の検討体系を整備するため、過去の報告の誤りや漏れ等も含めたヒヤリハット事例は、覚知した都度、所内で共有するとともに、データベースに蓄積し、定期的な確認を実施
- ・ 組織としての管理体制を強化させるため、確認フロー及び役割分担を明確に規定し、関連する研修を実施

4 今後の取組

- ・ 本報告書に基づく再発防止対策を着実に実行するとともに、運用状況の確認を定期的かつ継続的に実施し、不断の改善を進めていく。
- ・ データ管理及び報告書作成に関する知見を組織として蓄積し、担当者間の円滑な引継ぎ体制を確実に維持していく。

(1) Cs-137 濃度の推移の一部未表示

ア マガキの Cs-137 濃度の推移

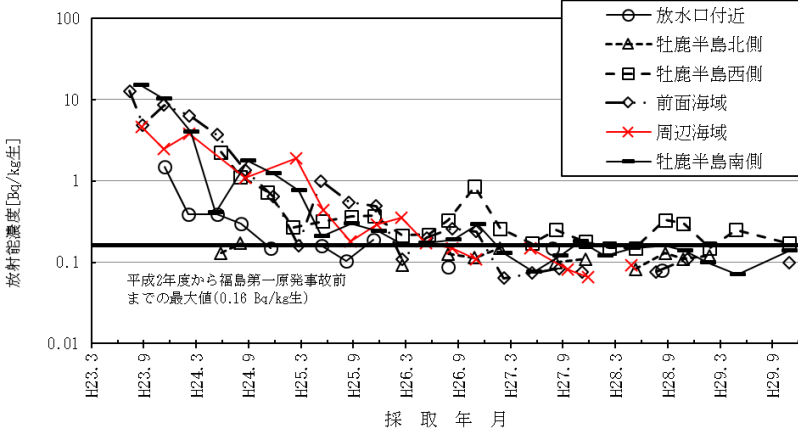
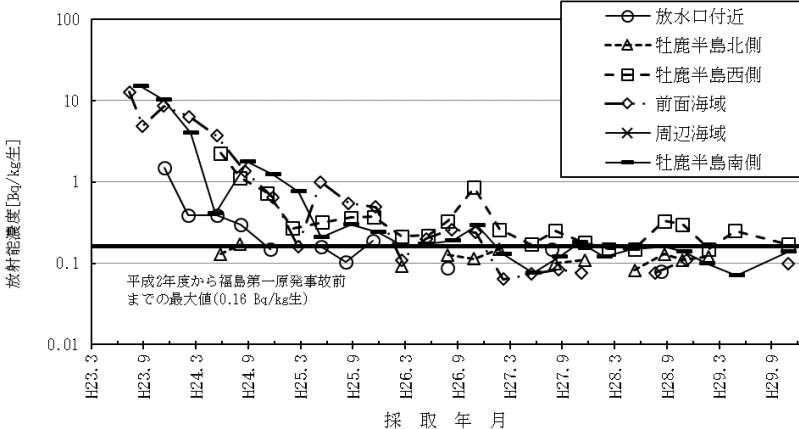
・平成27年度第3四半期報 22ページ 図-2-23

正	誤	備考
放射能濃度[Bq/kg生] ↑平成2年度から福島第一原発事故前までの最大値(0.058 Bq/kg生) 採取年月 図-2-23 カキのCs-137濃度の推移	放射能濃度[Bq/kg生] ↑平成2年度から福島第一原発事故前までの最大値(0.058 Bq/kg生) 採取年月 図-2-23 カキのCs-137濃度の推移	気仙沼を表示するもの。

イ アラメの Cs-137 濃度の推移

(ア) 周辺海域のみ

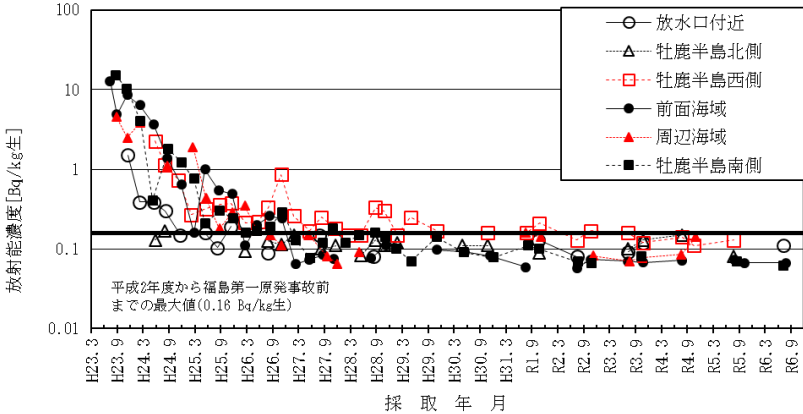
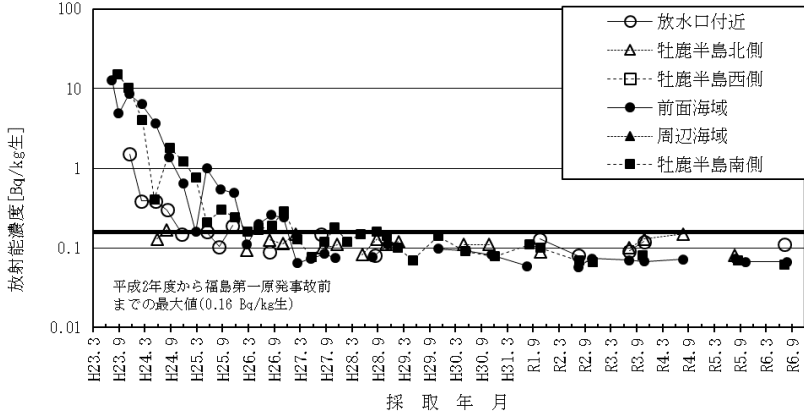
・平成 29 年度第 3 四半期報 23 ページ 図-2-26

正	誤	備考
 図-2-26 アラメのCs-137濃度の推移	 図-2-26 アラメのCs-137濃度の推移	周辺海域を 表示するも の。

※平成 28 年度第 2 四半期報 23 ページ 図-2-24、平成 28 年度第 3 四半期報 23 ページ 図-2-26、
平成 28 年度第 4 四半期報 21 ページ 図-2-20、平成 28 年度報 21 ページ 図-20
平成 29 年度第 1 四半期報 21 ページ 図-2-20 も同様。

(イ) 牡鹿半島西側及び周辺海域

・ 令和6年度第3四半期報 25ページ 図-2-30

正	誤	備考
 図-2-30 アラメのCs-137濃度の推移	 図-2-30 アラメのCs-137濃度の推移	牡鹿半島西側及び周辺海域を表示するもの。

※令和5年度第3四半期報 25ページ 図-2-30、令和6年度第2四半期報 24ページ 図-2-27も同様